

子どもの権利を実現するために

エファジャパン年次報告書 2008

ご挨拶



<エファジャパンのミッション>
 エファジャパンは：

すべての子どもが
 生きる力を存分に発揮できる社会をめざし
 子どもの権利を実現するために活動します

2008 年 4 月、エファジャパンは団体のミッショ
 ンを策定しました。「ミッション (mission)」とは、
 近年、非営利団体や企業により組織の「使命」や「信
 念」、「活動指針」といった意味で使われるようになった言葉で、エファジャパンでは「活
 動の拠りどころとなるもの」として掲げています。

子どもの権利とは、子どもが生まれながらにして持っている、子どもの健全な成長と発
 達に不可欠な基本的人権です。『子どもの権利条約』※では大きく 4 つに分類され、保障
 されなければならない権利として規定されています。その 4 つとは、「生きる権利（健康、
 医療、十分な栄養など）」「発達する権利（教育、遊び、情報へのアクセスなど）」「保護さ
 れる権利（差別・虐待・搾取からの保護など）」「参加する権利（意見表明、集会の自由な
 ど）」この 4 つの権利はどれも相互に深く関連していますが、エファジャパンの事業にあ
 てはめて考えてみると、ベトナム事業は子どもの保護される権利を、ラオス事業は発達す
 る権利・参加する権利を、カンボジア事業は発達する権利を主に実現するための活動であ
 ると言えます。

2008 年度を終え、2009 年度はエファジャパンの設立 5 周年、エファジャパンを設立
 した自治労がその活動の基礎となる「アジア子どもの家事業」を開始してから 15 年目と
 なる年を迎えます。みなさまのご支援を賜りこれまで多くの子ども達の日常に安心と成長
 を確保し、未来へ続く道筋を照らす手伝いことができましたことを深く感謝申し上げますと共に、
 未だ保障されているとはいいがたい大勢の子ども達の権利を実現していくため、今後もみ
 なさまのご理解とご協力、そしてご尽力を賜りますよう、なにとぞよろしくお願い申し上
 げます。

特定非営利活動法人エファジャパン
 理事長 イーデス ハンソン

※『子どもの権利条約』（正式名称：「児童の権利に関する条約」）
 子ども（18 歳未満）の基本的人権を国際的に保障するために定められた条約で、1989 年の第 44 回国連総会で採択され、1990 年に発効。
 日本は 1994 年に批准。現在締結国・地域数は 193。未締結（署名したが批准していない）国はアメリカとソマリアの 2 カ国。

— 目 次 —

ご挨拶	2	ラオス	8 ～ 9
2008 年度活動ハイライト	3	緊急・人道支援	10
エファジャパンの組織	3	国内事業	11
ベトナム	4 ～ 5	エファグッズ 開発・販売	12
カンボジア	6 ～ 7	会計資料	13 ～ 15

2008 年度活動ハイライト

・・・海外事業・・・

- ・ベトナム・ハイフォン市児童福祉サービス関連職員研修事業実施
ハイフォン市内で、保護を必要とする子どもに関わる職員のための研修事業を実施。
- ・ラオス国立大学中央図書館長招聘研修実施
ラオス国立大学中央図書館長で、ラオス図書館協会の副会長であるチャンシー氏を滋賀県に招聘し、図書館視察・研修を実施。
- ・ビルマ（ミャンマー）サイクロン、中国四川地震 緊急支援実施
2008 年 5 月に発生したミャンマーのサイクロンおよび中国の四川地震の被災者を支援するため、募金により集まった約 4,350 万円を緊急支援事業へ。

・・・国内事業・・・

- ・エファジャパン ミッション策定

エファジャパンの組織

支援者

会 員

正 会 員 …202 人
 シニア会員…17 人
 賛助会員個人…57 人
 賛助会員団体…37 団体

総会
 （正会員で構成）

- ・エファパートナー
- ・一般寄付者（個人）
- ・一般寄付者（団体）
- ・事業指定寄付者（個人）
（カンボジア・緊急人道支援・ようちえん募金）
- ・事業指定寄付者（団体）
（ベトナム・ラオス・カンボジア・緊急人道支援、他）
- ・ボランティア
（事務局ボランティア・イベントボランティア、他）

理事会

理事長	イーデス・ハンソン
副理事長	岡部 謙治
理事	井ノ口 登
理事	大島 芳雄
理事	金田 文夫
理事	玉井 一匡
理事	吉川 健治
監事	新開 忠孝

事務局

事務局長	大島 芳雄
海外事業	高山 淳子
国内事業	五十嵐 香織
広報	宮原 朝香
ラオス駐在	中村 いずみ

2009 年 3 月 31 日 時点

ベトナム Viet Nam

ベトナム概況

・支援が必要な背景

住民の生活や支援活動に大きな障害となっている近年の物価高騰。最近は徐々に安定してきたものの結果的に物価は下がることなく困難な状況が続いています。子ども達の健康な生活や社会参加を支えるため、現地関係者との協力体制を強化して支援を継続する必要があります。

・支援の目標、目的

ハイフォン市において、本年より児童福祉サービスの所管がハイフォン市労働者傷病兵社会福祉局へほぼ集約されました。当局と協議を続け、市全体の児童福祉サービスの充実のための支援へ活動を広げていきます。

ベトナム子どもの家支援事業

■子どもの家概況

エファジャパンのハイフォン市における支援事業は、同市児童保護基金をカウンターパートとして進めています。近年ベトナムでは政府機関の統合や改革が進み、児童保護基金はハイフォン市労働者傷病兵社会福祉局に統合されました。ここは従前より児童福祉だけでなく様々な社会福祉サービスを担当している大きな機関です。児童保護基金がこの管轄下になることにより、支援事業がより広がりを持って発展していくことが期待されます。



ベトナム子どもの家は1995年にハイフォン市レチャン区に自治労の支援により創立され、2004年のエファジャパン設立と同時に事業を引き継ぎ発展させてきました。子どもの家は様々な問題によって親と暮らせない子ども約10名を保護し学校へ通わせるだけでなく、識字教室、職業訓練教室ほか様々な課外活動を無料で行ない、近隣の多くの貧困家庭の子どもも参加しています。

■支援事業

「子どもの生活状況改善支援事業」（支援団体：自治労鳥取県本部）は開始から3年近く経ち、事業の終了

が近づいています。この事業は後述のホンバン愛の家も対象とし、両施設に保護されている子ども達が支援を受けてきました。財政難や物価上昇に影響を受けることなく、子ども達に安定した衣食住環境を提供するため、主に子ども達の食費を中心とした日常生活支援、困難を抱えた子ども達の肉体的・精神的成長のための文化活動支援の2つを目的にしています。支援開始後は食費が約2倍になり、様々な活動や交流に参加する機会が増え、子どもたちは目に見えて大きく成長しました。開始以来著しく高騰する物価に対し、職員は様々な工夫をして支援金を十分に活用することで乗り越えてきました。事業終了は次年度の4月末ですので、終了時評価と合わせて事業の成果と今後の方向性を協議をする予定です。

「子どもの家職員処遇改善支援事業」（支援団体：自治労栃木県本部）も開始から3年近くが経ち、事業は順調に進んでいます。この支援により職員たちは適切な給与を得ることができ、急な離職が減り雇用の継続が可能になりました。その結果、質の安定した授業が提供され子ども達にとってより良い環境となり、職員達の意識が変わり更に熱心な指導がされるようになったと感じます。但し、物価の上昇にともない給与も上昇傾向にあるため、これについては今後の課題として、児童保護基金との協議やエファグッズの売上金の活用 of 検討などを通して取り組んでいきたいと思っています。

ホンバン愛の家支援事業

■ホンバン愛の家概況

1999年にハイフォン市ホンバン区に設立されたホンバン愛の家は、子どもの家と同様に様々な困難を抱えた子ども達を保護し学校へ通わせ、あたたかく見守ってきました。しかし、継続した支援がほとんどなく慢性的な財政難を抱えていました。2006年、エファジャパンはホンバン愛の家の状況を確認し、子どもの家とともに子どもの生活状況改善支援事業を開始し、子ども達を取り巻く環境を大きく向上させてきました。

ホンバン区も政府機関の統合により、これまで管轄していたホンバン区人口家族子ども委員会が廃止されホンバン区労働者傷病兵社会福祉局の管轄になりました。建物の敷地が都市開発の対象地域となったことにより移転を余儀なくされ、また多くの子ども達の家庭が受け入れ可能な状態になり家庭に戻ることができたことから、5月より活動を一時中断しています。最終的に行き先が決まらなかった子どもは年齢が高かったため職業訓練を通して就職し、自立生活への第一歩を踏み出しました。

■支援事業

「子どもの生活状況改善支援事業」（支援団体：自治労鳥取県本部）が子どもの家とともに開始されましたが、上述の理由からほぼ1年間活動が中断され、その間の支援金はエファジャパンが管理しています。事業が終了する2009年4月には、終了時評価と合わせて事業の成果と支援金の使途について協議をする予定です。

ハイフォン市児童保護関連職員能力向上研修支援

昨年3月に開始したハイフォン市児童福祉職員能力向上研修支援事業（支援団体：自治労長野県本部）の開始から1年経ち、順調に初年度の活動を終了しました。



児童福祉サービスを充実させるため職員等の能力向上研修を支援してほしいという現地の要請に基づきエファジャパンが調査し、必要性が高いと判断して

支援開始当初はアルバイトをして運営資金を補っていた就労児童もいましたが、支援開始後は一切なくなり学校へ通う子どもが増え、また栄養も改善され、子ども達を取り巻く環境が一変しました。家庭の状況が安定し家族の元に戻った子ども、大学進学をした子ども、就職し自立した子どもなど、この約3年間の支援を通して子ども達は心身ともに成長し元気に巣立っていきました。

の支援開始でした。子ども担当の行政職員の研修、障がい児を持つ家族のリハビリ研修、子ども達へのライフスキル研修、児童保護施設職員の研修など合計6回行ないました。

全ての研修を視察したところ、それぞれ専門講師が熱心に指導しており、活発な意見交換も飛び交うなど、非常に良い研修であったと感じました。最終的には、職員の能力向上を通して一番の受益者であるべき子ども達を取り巻く環境がどのように改善されたかを評価し、子どもの権利促進の視点から進めていきたいと思っています。

アジア子どもの家奨学金基金

1999年より自治労栃木県本部が計500万円をハイフォン市に委託し、その利子を運用して奨学金事業を開始しました。奨学金基金はハイフォン市児童保護基金が管理し、年に1回奨学金授与式を実施しています。本年は5月末に行なわれ、例年通りハイフォン市の様々な児童保護施設に保護されている約70人の子ども達に

奨学金が授与され、一部は緊急治療の必要な子どもの医療費に当てられました。奨学金の予算はその年の銀行金利によって左右されるので、少々不安定な情勢です。しかし、本事業開始以降下降傾向だった金利がこのところ上昇傾向にあるため、次年度に見込まれている奨学金の予算は例年より多くなる予定です。

ハイフォン市障がい児教室活動支援

自治労佐賀県本部よりいただいた寄付金で、ハイフォン市の2つの障がい児教室の活動支援を行ないました。もともとこれらの教室では、人民委員会の一室を利用して人民委員会の職員が近隣の障がい児に読み書きや遊びの指導をしていました。従って毎日開かれているわけではなく活動内容も不十分でした。そこで、主に音楽と体育の備品を寄贈し活動を広げ、音楽に関しては小学校の音楽の先生を講師に迎え担当職員が指導を受けました。また、制服や衛生用品の配布も行ないました。この支援に

よって、障がい児の表情がずっと明るくなり、驚くほど自主性が芽生え積極的に活動に参加するようになりました。



た。エファジャパンは将来的に障がい児支援も視野に入れているため、これをきっかけに様々な障がい児支援の可能性を探っていく予定です。

ベトナム事業の今後

都市開発が進み様々な変貌を遂げているハイフォン市ですが、それにともない児童福祉サービスも大きく向上しているというわけではありません。支援している児童保護施設の状況改善とともに、子どもに関わる様々な人たちの能力向上研修支援、障がい児の支援など、今後も調査や協議を通してハイフォン市全体の児童福祉サービスに協力していきます。

カンボジア Cambodia

カンボジア概況

・支援が必要な背景

ポル・ポト政権の恐怖政治によって、社会システムが崩壊したこの国は、人材の養成が急務です。しかしながら、偏った経済成長により貧富の格差が広がり、貧しさ故に教育を受けることができない子ども達が大勢存在します。

・支援の目標、目的

ポル・ポト政権時代の知識階級の虐殺や、その後の内戦による教育分野の遅れから、就学率や識字率が低く、また教育の質も高いとは言えません。より多くの子ども達に教育の機会を提供し、また教育の質の向上をめざします。

カンボジア子どもの家奨学金事業

■子どもの家概況

1997年に、自治労の支援によって首都プノンペンに国立幼稚園教師養成学校および付属幼稚園として設立されました。養成学校は2年制で、2008年度からは1年生が200人、2年生が100人学んでいます。訓練生の実習の場でもある幼稚園には約100人の幼児が通園しています。教育者と子どもの双方を育成する施設として、カンボジアの幼児教育に大きく貢献しています。



また、スラムの子どもにとっては幼稚園での朝・昼・おやつの給食や定期的な健康診断も健やかな体の成長に大きな役割を果たしており、夕方までの保育は両親が共働きか片親家庭であることが多い彼らの安全にも配慮しています。

■奨学金事業

自治労和歌山県本部の支援により、子どもの家近隣のスラムから30人の子ども達が奨学金を受けて、子どもの家で学ぶことができました。幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる最も大切な時期です。豊かな感性を養い、就学後の学習意欲や学習態度の基礎となる好奇心や探究心を身につけるために、幼児教育は重要です。また幼児教育は、初等教育への就学率の向上、退学率の減少、卒業率の向上に効果があります。スラムの子どもが幼稚園に通園することで、より多くの子どもが小学校に入学し、児童労働から解放され、保護者も安心して仕事に専念できる環境をつくります。



また、地方出身の貧しい訓練生15人にも、生活費として奨学金を支給しました。実習で作成する教材の材料費や、教育実習で他の幼稚園に行くための交通費の自己負担に苦勞したそうですが、全員卒業を果たし、出身県に戻って幼稚園教師として働きます。



2008年秋の新学期からは、園児30人と訓練生25人に月25ドルの奨学金を支給しています。

スラム内ノンフォーマル教育（寺子屋教室）運営支援

■スラム概況

2005年で700カ所と言われた、プノンペン市内のスラム。人々は日々の生活に追われ、子どもに教育を受けさせる余裕もなく、子ども達も働かなければなりません。また、拡大するプノンペンの街は、スラムの人々を更に周辺へと追いやっています。貧困、児童労働、犯罪、強制移住など、様々な問題が存在します。



■SCADP

カンボジアのNGO、SCADP (Street Children Assistance and Development Programme「ストリートチルドレンの支援と育成事業」) は、1992年に創設者のイム・ソカリィ女史がプノンペンでひとりのストリートチルドレンと出会い、その子にノートと鉛筆をあげて読み書きを教え始めたことから活動が始まりました。その後、1998年に内務省から正式に非営利活動団体として認可を受けました。活動の中心は教育事業で、現在では、プノンペン市と地方5県で11,000人近い子ども達に教育の機会を提供しています。

■寺子屋教室

SCADPと連携して、プノンペン市内のスラム3カ所で寺子屋教室を開設、6歳から15歳くらいまでの子どもが合計200人登録されました。教室になる部屋を借

り、先生を雇い、子ども達には教材、文具、制服を支給しました。授業では、読み書き、計算、道徳などを学びます。途中、スラム1カ所が撤去されたため、教室も閉鎖され、残った資金で郊外の別の寺子屋を支援しました。学力テストを定期的に行い、その結果で公立小学校へ編入可能かどうか判定されます。2007年10月からの1年目は、200人の子どものうち83%が編入資格を得ることができました。しかし、単年度の支援しか約束しなかったため、公立小学校に編入した子どもの追跡調査ができていなかったり、寺子屋教室の先生も進学や転職で辞めてしまいました。

2008年10月から始まった2年目の支援では、新規に教室を開設するのではなく、以前からあった教室3カ所への支援を決め、200人のスラムの子どもが登録されました。同時に、先生の人件費を3年間継続支援することも約束しています。複数年の支援を予定することで、先生の育成や生徒のフォローアップを充実していきたいと考えています。



公立幼稚園保育研修及び保育教材普及支援事業

エファジャパン、自治労関東甲地区連絡協議会、幼い難民を考える会の3者の共同事業として、カンダール州での公立幼稚園の保育研修と保育教材普及事業を実施しました。2008年度からは、ラタナキリ州でもワーク

ショップを実施しました。

また、2009年2月には、自治労関東甲地区連絡協議会からの派遣メンバーが現地ツアーを実施し、支援事業の評価を行ないました。

カンボジア事業の今後

子どもの家奨学金事業は広く募金を募り、園児30人と訓練生20人への奨学金を継続します。また、幼児教育の質を向上させるため、専門家（保育士）を派遣します。

カンボジア政府も力を入れている「万人のための教育」実現のため、スラムにおけるノンフォーマル教育をカンボジアのNGO、SCADPと共に推進します。さらに、SCADPの人材養成を支援します。

ラオス Laos

ラオス概況

・支援が必要な背景

ラオスには図書館が少ないだけでなく、図書室等が全く存在しない学校も多数あり、子ども達が本に触れる機会が非常に少ない状況です。また、学校で美術・体育・音楽といった情操教育が行われることがほとんど無いため、学校外でそのような教育を実施する施設が必要です。

・支援の目標、目的

ヴィエンチャン市立図書館・多目的ホールがラオスのモデル図書館となるよう充実させると同時に、地方では小さな図書室又は図書コーナーを作り、子ども達が本に接し、心豊かに育っていく支援をします。また、情操教育の場として子ども文化センターを支援します。

ヴィエンチャン市立図書館事業

■図書館概況

首都に国立図書館以外の図書館が存在しないこと、また国立図書館は設立から既に 50 年経ち、建物が非常に古く、子ども達に魅力的な図書館でないことから、自治労 3 県本部（東京都・愛知県・北海道）の支援により 2006 年に首都ヴィエンチャンに市立図書館を建て、今年で 3 年目になります。エファジャパンは 2007 年 4 月よりラオスに駐在員を置いて運営支援を行なっていますが、蔵書の増加・職員の能力強化、設備の増強など、まだまだ足りない部分が多くあります。

■支援事業

ヴィエンチャン市立図書館・多目的ホールでは月々の運営費、職員の超過勤務代・通勤手当、蔵書の増加・ホール設備拡充・ホールでの活動などの支援を続けています。また、職員をベトナムやラオス国内での研修に送り出して能力強化を図っています。

ヴィエンチャン市立図書館は月曜～金曜：9 時～ 18 時、

地方子ども文化センター支援事業

■子ども文化センター概況

1996 年に「アジア子どもの家プロジェクト」の 1 つとして、首都ヴィエンチャンに設立された「ラオス子どもの家」は、その後、子ども文化センター（CCC）として各県に拡大してきました。その重要性を認識したラオス政府は 2010 年までに全 17 県に CCC を創るという目標を立て、現在ラオス 17 県中 16 県にまで広がっています。しかし、財政難で子ども達に魅力的な活動が出来ていない CCC が多くあります。

■支援事業

2001 年から 8 年間継続されてきたルアンパバン CCC への支援（支援団体：自治労佐賀県本部）は 2008 年 12 月で終了しました。今後も郡の CCC 支援などを考慮しています。

土曜：9 時～ 16 時に開館しており、仕事や学校帰りの人々も利用出来る利便性の高い図書館です。現在でも 1 日平均 300 人がこの図書館を利用しており、その 80% は大学生以下の子どもが占めています。

■ラオス国立大学図書館長研修事業



3 月に国立大学中央図書館長でラオス図書館協会副会長のチャンシー氏を自治労滋賀県本部のご支援で日本へ招聘し、公共図書館の視察・研修を行ないました。

ラオスへ帰国後、日本での経験を共有するためにヴィエンチャン市立図書館職員へ研修を実施しました。

日本図書館協会など図書館関係者との関係が構築され、今後の関係強化が期待されます。

2008 年 1 月より開始した南部のカムワン県、北部のシェンクワン県の CCC 支援（支援団体：自治労大分県本部）は 2 年目になりました。

今年度は、ジュニアリーダー（10 代の子どもボランティア）育成研修を両 CCC で実施しました。また、CCC 外への郡内出張活動（距離が遠くて CCC へ通えない子ども達にも活動に参加する機会を与える）、職員の能力強化研修、子ども達の活動用具などの支援を行ないました。

2008 年 12 月にはエファジャパンに関わる全 CCC をヴィエンチャンに招待して、研修・意見交換会を実施しました。



メコン河洪水被災者支援



2008 年 8 月にメコン河及び支流で洪水が起き、ラオス国内でも約 20 万人が被災、38 万ヘクタールの田畑が冠水し灌漑施設の半数が破壊されるなど多くの被害が報告されました。ラ

オス外務省は異例の会議を開催し、国際機関及び NGO に支援を要請しました。

これを受け、エファジャパンでは現在支援を行なっ

ている県の内、被害のあったカムワン県とルアンパバン県へ緊急に 2,000 ドルの支援を行ないました。住民への米配布や、洪水の為に教室増築が不可能となった小学校に建設材料の支援などを実施しました。また、人・家畜の病気の蔓延を防ぐための啓蒙教育や対策が必要となるため、CCC 職員に研修を行ない、CCC を拠点とした啓蒙活動を実施しました。



その他の活動

■MOU(覚書)締結

2008 年 10 月にラオス情報文化省と覚書を交わしました。この覚書はラオスで活動を実施する約束を政府と取り交わすものです。覚書を締結することで、公的資金（外務省の補助金など）を受ける資格が得られることや、事業実施にあたりラオス政府の協力を得やすくなり、今後支援の実施や充実がより円滑に行なえることが期待されます。

支援内容はヴィエンチャン市立図書館（2009 年 12 月まで）、地方子どもセンター支援（ルアンパバン県 CCC 支援：2008 年 12 月まで、シェンクワン・カムワン県 CCC 支援・2010 年 12 月まで）です。

■少数民族学校への支援

自治労大分県本部の有志のご支援で、2009 年 1 月にカムワン少数民族学校にポンプを 2 台寄贈することが出来ました。

この学校では、県内の特に僻地から集まった少数民族の子ども達が約 360 名、小学校から高校まで全寮制で



■コミュニティ図書館

南部サバナケート県アサボン郡で、国立図書館の支援要請を受けて、11 月にコミュニティ図書館を作りました（支援者：三上愛様）。郡唯一の図書館は中高校に併設され、村全体で使用されることになっています。2009 年 1 月に蔵書の追加支援とモニタリングを実施しました。



ラオス事業の今後

ヴィエンチャン市立図書館をラオスのモデル図書館とするべく、管理運営能力強化・設備拡充の継続、および地方でのコミュニティ図書館・図書室の支援が必要です。地方の CCC への支援を継続し、特に郡や村レベルで支援の必要性を調査し、支援提案をしていきます。

緊急・人道支援

エファジャパンでは、自然災害や紛争が起きた際緊急人道支援を行います。2008 年度は、ビルマ（ミャンマー）サイクロン被災者支援と中国・四川地震被災者支援、およびパレスチナ自治区ガザ支援を実施しました。

自然災害募金によるビルマ、中国支援事業

ビルマ（ミャンマー）サイクロン被災者支援事業

2008 年 5 月にビルマ（ミャンマー）のイラワジデルタを襲ったサイクロンの被災者は 240 万人以上、死者・行方不明者 13 万 8 千人超、負傷者 2 万人弱といわれています。

エファジャパンは、被災者救援のパートナーとして、長年現地で開発事業を行なっている日本の N G O ブリッジ・エーシア・ジャパン（B A J）を選び、自治労関係者からの救援カンパ金を託しました。

■ 緊急援助・復興支援（前期）（支援金額：10,398,313 円）

- 1) 物資の配給
被災直後から、飲料水、食料、ろうそく、石けん、ビニールシート、衣類などを被災者に配りました。
- 2) モバイルワークショップ（移動修理所）
被災地の住民は、稲作を中心とする農業や漁業に従事しています。今回のサイクロンでは、多くの耕耘機や揚水ポンプ用のエンジン、ボートのエンジンが高潮のため水に浸かり使用できなくなりました。技術を持った B A J のスタッフが被災した村々を移動しながら、合計 335 台のエンジンを修理しました。

- 3) 学校再建
モールミヤインジュン地区で、サイクロンの被害を受けた学校は 258 校、そのうち 146 校が全壊しました。新築、修復、トイレの再建、机・イスの支給を行ないました。

■ 復興支援（後期）（支援金額：20,693,173 円）

- 1) 小学校再建（新築）
モールミヤインジュン地区のチェッシャー村とミッターウトー村で、小学校を 1 校ずつ新築しました。チェッシャー村は、海に近く高潮の被害を受けたため、避難所としても使える 2 階建ての校舎を建設しました。
- 2) 小学校修復

モールミヤインジュン地区のチュエチャウンイエーチョウ村とカザンチャウン村で、小学校を 1 校ずつ修復しました。

3) モバイルワークショップ

遠隔地で水に浸かり使用できなくなった農業用・漁業用エンジン 148 台を修理しました。現場のメンテナンス技術を向上させるため、機械類の修理に関心がある地元の青年をアシスタントとして雇用し、技術指導を行ないました。

中国・四川地震被災者支援事業

2008 年 5 月 12 日に中国四川省で発生した大地震は、死者 69,227 人、行方不明者 17,923 人以上という大きな被害をもたらしました。サイクロン被災者支援と同時に四川地震に対する募金を呼びかけ、多くのご協力により 12,423,002 円を日本赤十字社へ資金提供しました。

日本赤十字社は国際赤十字の一員として、テントの供与を始めとする緊急救援事業（8 億 7900 万円）を実施し、その後住宅、学校、保健施設の再建を中心とする復興支援事業（41 億 6100 万円）を行なっています。（2009 年 1 月末現在）

自然災害募金支援報告

合計			43,514,488 円
内 訳	ビルマ・サイクロン被災者支援		31,091,486 円
		緊急援助・復興支援（前期）	10,398,313 円
		復興支援（後期）	20,693,173 円
	中国・四川地震被災者支援		12,423,002 円

パレスチナ自治区ガザ支援事業

2008 年末に始まったイスラエルのパレスチナ自治区ガザへの軍事攻撃によって、1,400 人以上の死者、5,000 人を超える負傷者が出ました。死傷者の多くは、非戦闘員、特に子どもと大人の女性でした。

エファジャパンは、ガザ住民支援のため 21 万円

を日本国際ボランティアセンター（JVC）に託しました。JVC は、PMRS（Palestinian Medical Relief Society: パレスチナ医療救援協会）を通じて、ガザ地区の緊急医療支援を行ないました。

国内事業

イベント・集会等

■自治労神奈川県本部学習会（12/19・横浜）

12 月 19 日に甲斐田万智子さん（国際子ども権利センター代表理事）を講師に招き、学習会「子どもの性的搾取の世界の流れ～ブラジル会議参加報告～」を自治労神奈川県本部で行ないました。当日は約 30 名の方にご参加いただきました。

甲斐田さんからは、子ども買春や子どもポルノ、人身売買など、子どもの性的搾取の現状についてカンボジアの事例をもとにお話いただいたあと、2008 年 11 月



末にブラジルのリオデジャネイロで開催された子どもの性的搾取に反対する世界会議（ブラジル会議）の報告や、私たちに出来ることなどをお話いただきました。

日本でも映画『闇の子どもたち』が話題になるなど、子どもの性的搾取の問題への関心が高まっていることもあり、参加者が熱心に耳を傾けているのが印象的でした。

■理事長イーデス・ハンソン講演会

（5/13 長野、6/14 熊本、11/8 佐賀他）
理事長イーデス・ハンソンの講演会が各地で行われ、ベトナム・ラオス・カンボジアの子どもたちの状況やエファジャパンの取り組みについて講演しました。



■その他 2008 年度に参加した主なイベント

- ・メーデー中央大会（4/26・東京）
- ・NTT 労組児童労働撲滅キャンペーンイベント（5/17・名古屋、5/31・横浜）
- ・自治労第 80 回定期大会（8/28～29・千葉）
- ・グローバルフェスタ JAPAN2008（10/4～5・東京）
- ・東京海上日動火災保険チャリティブックフェア & NPO/NGO フェア（1/21～22・東京）他

広報

■広報誌「えんばわ」

エファジャパン会員他、関係者・団体、全国地域国際化協会、全国ボランティアセンター等へ配布しています。発行：季刊、8,000 部

【特集記事】

- 第 9 号「対談：甲斐田万智子×イーデス・ハンソン」
- 第 10 号「ラオスにも 児童館があるのしってますか？」
- 第 11 号「子ども達をサポートするために学ぶ」（ベトナム）
- 第 12 号「カンボジアを支える未来の先生たち」

■ホームページ（<http://www.efa-japan.org/>）

最新情報やスタッフ日記などエファジャパンの活動をお知らせしています。ホームページの他、JANIC Web サイトの「NGO サポート募金」、Yahoo！インターネット募金、Web サイト「イーココロ！」でのインターネット募金等も継続中。

■エファ通信（メールマガジン）

原則月 1 回配信。エファジャパン会員他ご希望の方にエファの活動報告、最新情報をお知らせしています。バックナンバーは HP でもご覧になれます。

■自治労通信での連載・広告掲載

自治労中央本部のご協力により、機関誌「自治労通信」に記事連載と広告を掲載していただいています。

その他

■文房具の収集・寄付

自治労三重県本部が文房具の収集に取り組み、エファジャパンへ大量に寄付していただきました。順次支援地の子ども達に届けています。

■書き損じハガキ・未使用切手の収集

多くのご協力をいただき、281,619 円（切手への交換手数料差引後）分集まりました。このうち一部を現金化し、121,000 円の収入となりました。

■エファボラ（エファボランティアデー）

事務局ボランティアを一般募集し、毎月最終木曜に活動しています。ボランティア内容は、広報誌の発送作業やエファグッズの在庫確認など。毎月平均 6 人前後の方にご参加いただいています。

■イベントボランティア

4 月のメーデー、10 月のグローバルフェスタをお手伝いいただきました。イベントは土日・祝日に行われるため高校生から社会人まで幅広い年齢の参加があり、イベント運営のボランティアだけでなく、家族・友人をイベントに誘うなど様々な形で応援していただきました。

エファグッズ 開発・販売

◆エファグッズとは◆

エファグッズは、「ベトナム子どもの家」で実施している職業訓練教室で製作されています。現在「ベトナム子どもの家」では縫製、刺繍、理容の3つの職業訓練教室があり、保護されている10名前後の子どもだけでなく近隣に住む貧困層の子ども達にも開かれているため、多くの子ども達が参加しています。

3つの教室のうち縫製と刺繍を習っている子ども達がこのエファグッズを作っています。エファジャパンが「ベトナム子どもの家」からグッズを買い取ることで、材料費・運搬費・事務費を除く一部が製作に関わった子ども

への報酬に、残りが「子どもの家」運営基金に組み入れられる仕組みになっています（割合は商品によって異なりますが、例えば400円の巾着の場合、材料費・運搬費等が250円、縫製・刺繍・アイロン等製作に関わった子どもへ100円、運営基金に50円、という具合です）。

子ども達にとっては大人が見守る安全な場所で（お小遣い程度ですが）多少の収入を得ることができる機会であり、「子どもの家」にとっては自立運営に向けた取り組みにもなっています。

【収支】	収入	エファグッズ	1,415,664	支出	仕入れ、輸送経費、雑費等	4,221,133
		自治労布袋	3,518,550			
	収入合計		4,934,214	支出合計		4,221,133
			利益	713,081		

◆商品開発について◆

エファグッズについては様々な機会 で宣伝をさせていただいたことから、記念品としての注文も例年通りいただくことができました。しかし、子どもの作業であることや輸送の関係により大量の注文に関しては期間をいただいているため、急な注文に対応できないことからお断りせざるを得ないこともあります。本年も物価上昇により仕入れ価格が一部値上がりしたことと大きな注文の伸びが無かったことから売上額は昨年に比べて下がりましたが、輸送方法を工夫し経費を減らしました。自治労布袋については追加の注文を多くいただき、結果として昨年より売上を伸ばすことができました。

子ども達の技術は年々向上しており、上手な生徒が先生に代わって指導できるまでになっています。10年以上も子どもの家に通って自治労布袋やエファグッズの製作をしている生徒の中には、子どもの家以外からも洋服の直しや縫製の注文を得ることができるようになり、多

い時には月に100ドル以上の収入を得、自立した生活を可能にしています。また、エファジャパンの商品開発事業は子どもたちだけでなく子どもの家の運営にも大きく貢献しており、子どもの家では売上の一部から毎年多くの積み立てをしその積立金を運営資金などに活用しています。このように、エファジャパンの商品開発事業は子どもたちの収入や就職および子どもの家の運営に大きく関わっていることから、今後も価格やデザインの見直しをしながら、良い形で進めていきたいと考えています。



◆カタログ・ホームページ◆

エファグッズはホームページ上で全ての商品を紹介しているほか、カタログを制作し会員その他支援者・関係者のみなさまへ配布しています。2008年度のカタログは、これまでの16ページある冊子からA4版4つ折の薄くて軽いものに変更し、その分印刷部数を1,000部から8,000部に変更しました。1部あたりの印刷費用や郵送の料金も安くなり、また、カタログ自体の在庫も

大幅に増えたため、イベント等での配布や支援者・関係者のみなさまからのご請求にも十分お応えできるようになりました。



収支計算書

2008年4月1日から2009年3月31日まで

特定非営利活動法人 エファジャパン

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異
I 経常収入の部			
1 会費収入	5,320,000	4,254,000	1,066,000
正会員（個人及び団体）	2,640,000	2,040,000	600,000
シニア会員（個人）	180,000	84,000	96,000
賛助会員（個人）	500,000	480,000	20,000
賛助会員（団体）	2,000,000	1,650,000	350,000
2 収益事業費	5,400,000	4,975,414	424,586
エファグッズ	1,800,000	1,415,664	384,336
ベトナム布袋	3,600,000	3,518,550	81,450
その他	0	41,200	△ 41,200
3 寄付（エファパートナー）	3,900,000	2,678,000	1,222,000
パートナー（個人）	900,000	528,000	372,000
パートナー（団体）	3,000,000	2,150,000	850,000
4 補助金・助成金収入	31,800,000	31,000,000	800,000
自治労中央本部	15,000,000	15,000,000	0
自治労共済	15,000,000	15,000,000	0
その他	1,800,000	1,000,000	800,000
5 寄付金収入	5,400,000	57,398,815	△ 51,998,815
目的指定寄付	5,100,000	56,215,526	△ 51,115,526
その他（一般寄付・募金）	300,000	1,183,289	△ 883,289
6 雑収入	0	37,173	△ 37,173
7 為替差益	0	20	△ 20
経常収入合計	51,820,000	100,343,422	△ 48,523,422
II 経常支出の部			
1 海外事業費	25,769,753	69,047,395	△ 43,277,642
①ベトナム事業費	9,200,000	7,833,235	1,366,765
仕入れ	4,200,000	3,584,085	615,915
グッズその他	1,000,000	637,048	362,952
その他	4,000,000	3,612,102	387,898
②カンボジア事業費	6,600,000	7,845,614	△ 1,245,614
③ラオス事業費	9,700,000	8,813,190	886,810
④人道支援	269,753	44,555,356	△ 44,285,603
2 国内事業費	7,190,000	5,454,786	1,735,214
①国内事業推進費	4,230,000	3,030,825	1,199,175
収益事業費	230,000	191,861	38,139
その他	4,000,000	2,838,964	1,161,036
②広報事業費	2,960,000	2,423,961	536,039
3 管理費	18,790,000	17,599,632	1,190,368
家賃	3,300,000	3,233,496	66,504
事務人件費	9,000,000	8,243,964	756,036
光熱費	140,000	150,437	△ 10,437
通信費	400,000	476,746	△ 76,746
消耗品費	300,000	266,202	33,798
旅費交通費	660,000	536,630	123,370
理事会運営費	200,000	167,720	32,280
法定福利費	1,800,000	1,965,444	△ 165,444
修繕費他	100,000	99,015	985
印刷費	300,000	210,539	89,461
機器リース代	610,000	592,992	17,008
福利厚生費	100,000	78,980	21,020
支払手数料	180,000	95,121	84,879
租税公課	10,000	13,734	△ 3,734
研修費	60,000	23,500	36,500
新聞図書費	30,000	18,972	11,028
業務委託費	1,600,000	1,420,140	179,860
雑費	0	6,000	△ 6,000
4 為替差損	0	8,309	△ 8,309
5 雑損失	0	1,050	△ 1,050
6 法人税等	70,000	70,000	0
経常支出合計	51,819,753	92,181,172	△ 40,361,419
経常収支差額	247	8,162,250	△ 8,162,003
III その他資金収入			
その他資金収入合計	0	0	0
IV その他資金支出			
その他資金支出合計	0	0	0
当期収支差額	247	8,162,250	△ 8,162,003
前期繰越収支差額	0	10,506,257	△ 10,506,257
次期繰越収支差額	247	18,668,507	△ 18,668,260

財産目録

2009年3月31日現在

特定非営利活動法人 エファジャパン

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	17,389,994		
現金 現金手許有高	358,703		
普通預金	10,871,989		
中央労働金庫市谷支店	3,943,080		
東京三菱銀行市ヶ谷支店	5,495,836		
東京三菱	1,433,073		
郵便振替口座	6,159,302		
未収会費	696,000		
棚卸資産	357,415		
立替金	190,765		
未収金	248,959		
前払費用	269,458		
仮払金	269,171		
流動資産合計		19,421,762	
2 固定資産			
その他の固定資産			
保証金	2,600,000		
その他の固定資産合計	2,600,000		
固定資産合計		2,600,000	
資産合計			22,021,762
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	335,031		
前受金	131,000		
預り金	217,224		
源泉税	57,250		
雇用保険	83,254		
住民税	45,200		
その他	31,520		
未払法人税等	70,000		
流動負債合計		753,255	
負債合計			753,255
正味財産			21,268,507

貸借対照表

2009年3月31日現在

特定非営利活動法人 エファジャパン

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	17,389,994		
現金	182,123		
小口現金	176,580		
普通預金	10,871,989		
郵便振替口座	6,159,302		
未収会費	696,000		
棚卸資産	357,415		
立替金	190,765		
未収金	248,959		
前払費用	269,458		
仮払金	269,171		
流動資産合計		19,421,762	
2 固定資産			
その他の固定資産			
保証金	2,600,000		
その他の固定資産合計	2,600,000		
固定資産合計		2,600,000	
資産合計			22,021,762
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	335,031		
前受金	131,000		
預り金	217,224		
未払法人税等	70,000		
流動負債合計		753,255	
負債合計			753,255
III 正味財産の部			
正味財産			21,268,507
(うち当期正味財産減少額)			(8,162,250)
負債及び正味財産合計			22,021,762

特定非営利活動法人エファジャパン 2008 年度年次報告書

発行 特定非営利活動法人エファジャパン 2009 年 7 月 24 日

〒102-0081 東京都千代田区四番町4 日本染色会館3階

電話 03-3263-0337 FAX 03-3263-0338 E-mail info@efa-japan.org

ホームページ http://www.efa-japan.org



すべての人々に、^{ちから}力を。